

```

*****
**                                                                 **
**              Systemwalker Centric Manager                      **
**          イベント監視定義動作確認コマンド(Windows)           **
**              使用手引書                                       **
**                                                                 **
*****

```

まえがき

### 本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Managerのイベント監視定義動作確認コマンドの使用方法について説明しています。

なお、本書は、Windows版/Solaris版/Linux版を対象としています。

### 本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの監視機能の設定および操作をする方を対象としています。

また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作をご理解のうえでお読みください。

### 記号について

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

- 記述例

[ PARA= { a   b   c   ... } ]
-------------------------------

- 記号の意味

記号	意味
[ ]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
_	省略可能記号 “[ ]” 内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
...	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

### 輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

### 商標について

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaとGlassFishは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Systemwalkerは、富士通株式会社の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

平成27年4月

改版履歴
平成27年 4月 初版

Copyright 2015 FUJITSU LIMITED

---

## 本書の構成

本書は、以下の構成で記述しています。

1. 機能概要
2. 提供ファイル
3. 動作環境
  - 3.1 動作OS
  - 3.2 対象バージョン・レベル
  - 3.3 対象インストール種別
4. 導入
  - 4.1 インストール
  - 4.2 アンインストール
5. 運用
  - 5.1 運用前テストでイベント監視条件定義の正当性を確認する
  - 5.2 運用中にイベント監視条件定義の正当性を確認する
6. mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド)
  - 6.1 機能説明
  - 6.2 記述形式
  - 6.3 オプション
  - 6.4 復帰値
  - 6.5 コマンド格納場所
  - 6.6 実行に必要な権限/実行環境
  - 6.7 注意事項
  - 6.8 使用例
  - 6.9 実行結果/出力形式
  - 6.10 出力例1
  - 6.11 出力例2
7. コリレーションログファイルの解析情報ファイル
  - 7.1 ファイル名
  - 7.2 使用用途
  - 7.3 格納場所
  - 7.4 ファイル形式
  - 7.5 注意事項
  - 7.6 使用例1
  - 7.7 使用例2
8. メッセージ
  - 付録A. mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド) の出力メッセージ
    - 付録A.1 処理名 common に関する出力メッセージ
    - 付録A.2 処理名 convertmsg に関する出力メッセージ
    - 付録A.3 処理名 correlation に関する出力メッセージ
    - 付録A.4 処理名 eventgroup に関する出力メッセージ
    - 付録A.5 処理名 eventcheck に関する出力メッセージ
    - 付録A.6 処理名 samemsg に関する出力メッセージ
    - 付録A.7 処理名 amountmsg に関する出力メッセージ
    - 付録A.8 処理名 eventgroupdeterment に関する出力メッセージ
    - 付録A.9 処理名 readdefinition に関する出力メッセージ

## 1. 機能概要

イベント監視定義動作確認コマンドは、コリレーションログを解析し、運用前テストや実際の運用時に発生したイベントが、イベントの各監視定義のどの定義/設定に一致したのか確認するツールです。

受信したイベントに対するフィルタリング処理の結果がコリレーションログに記録されています。

イベントが各監視定義で定義した通りに監視が出来ていない事象となっている場合に、本コマンドにより、コリレーションログを解析することで、意図通りに動作していない原因を調べることが出来ます。

以下のような事象、定義/設定に対して利用できます。

- ・事象

- Systemwalker Centric Managerで監視するはずのイベントが監視されない
  - Systemwalker Centric Managerで監視しないはずのイベントが監視される

- ・定義/設定

- イベント監視の条件定義
  - イベントコリレーション監視の条件定義
  - メッセージ変換定義
  - イベントグループ定義
  - 類似イベント抑止定義
  - 同一イベント抑止の設定

## 2. 提供ファイル

本機能により提供されるファイルは以下のとおりです。

- ・イベント監視定義動作確認コマンド

- mpaoscrlogalyze.bat (コマンド本体)

- mpaoscrlogalyze.jar (コマンド本体から実行されるJavaアプリケーション)

- ・使用手引書 (本書)

- readme(mpaoscrlogalyze).pdf

## 3. 動作環境

### 3.1 動作OS

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter (x86)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter without Hyper-V (TM) (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter without Hyper-V (TM) (x86)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise (x86)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise without Hyper-V (TM) (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise without Hyper-V (TM) (x86)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Foundation (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Datacenter (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Enterprise (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Foundation (x64)

Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Standard (x64)

Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard (x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard (x86)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x86)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter(x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation(x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter (x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation (x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard (x64)  
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard(x64)  
Windows Vista(R) Business (x64)  
Windows Vista(R) Business (x86)  
Windows Vista(R) Enterprise (x64)  
Windows Vista(R) Enterprise (x86)  
Windows Vista(R) Home Basic (x64)  
Windows Vista(R) Home Premium (x64)  
Windows Vista(R) Home Premium (x86)  
Windows Vista(R) Ultimate (x64)  
Windows Vista(R) Ultimate (x86)  
Windows(R) 7 Enterprise (x64)  
Windows(R) 7 Enterprise (x86)  
Windows(R) 7 Home Premium (x64)  
Windows(R) 7 Home Premium (x86)  
Windows(R) 7 Professional (x64)  
Windows(R) 7 Professional (x86)  
Windows(R) 7 Ultimate (x64)  
Windows(R) 7 Ultimate (x86)  
Windows(R) 8 Enterprise(x64)  
Windows(R) 8 Enterprise(x86)  
Windows(R) 8 Pro(x64)  
Windows(R) 8 Pro(x86)  
Windows(R) 8(x64)  
Windows(R) 8(x86)  
Windows(R) 8.1 (x64)  
Windows(R) 8.1 (x86)  
Windows(R) 8.1 Enterprise (x64)  
Windows(R) 8.1 Enterprise (x86)  
Windows(R) 8.1 Pro (x64)  
Windows(R) 8.1 Pro (x86)

### 3.2 対象バージョン・レベル

Systemwalker Centric Manager V15.1.0

### 3.3 対象インストール種別

運用管理サーバ(注)、部門管理サーバ(注)、業務サーバ(注)、

運用管理クライアント、クライアント

注)Windows版のみ動作可能

## 4. 導入

### 4.1 インストール

インストールは以下の手順で行います。

#### (1) イベント監視定義動作確認コマンドのダウンロード

Administrator権限のユーザでログインし、Systemwalker Centric Manager V15.1.0のイベント監視定義動作確認コマンドを以下からダウンロードします。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL :

<http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/>

#### (2) イベント監視定義動作確認コマンドの解凍

自己解凍形式で提供されているイベント監視定義動作確認コマンドを、以下の条件を満たす任意のディレクトリ上で実行し解凍します。

条件 :

- ・運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバでは、Administrator権限 /DmAdmin権限/DmOperation権限/DmReference権限が必要です
- ・運用管理クライアント/クライアントでは、一般ユーザの権限が必要です。

ファイル名 :

mpaoscrlogalyze.exe

以下のファイルが解凍されます。

- ・mpaoscrlogalyze¥mpaoscrlogalyze.bat
- ・mpaoscrlogalyze¥mpaoscrlogalyze.jar

### 4.2 アンインストール

アンインストールは以下の手順で行います。

#### (1) イベント監視定義動作確認コマンドの削除

Administrator権限のユーザでログインし、任意のディレクトリに解凍した以下のファイルを削除します。

- ・mpaoscrlogalyze¥mpaoscrlogalyze.bat
- ・mpaoscrlogalyze¥mpaoscrlogalyze.jar

#### (2) イベント監視定義動作確認コマンドが作成した一時フォルダの削除

イベント監視定義動作確認コマンドを解凍したフォルダ内にある以下のフォルダを削除します。

- ・mpaoscrlogalyze¥temp

## 5. 運用

### 5.1 運用前テストでイベントの各監視定義の正当性を確認する

mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド) を使用したイベントの各監視定義の確認および修正の手順を示します。

手順の(4)、(5)、(6)は、mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）をダウンロードしたサーバまたはクライアントで実行します。

- (1) 定義の確認を行う運用環境のSystemwalker Centric Managerを起動します。
- (2) 本番運用で使用するイベントの各監視定義の作成、設定を行います。
- (3) 発生が想定されるイベントをすべて発生させます。  
または、本番運用環境、本番運用環境に近い環境で、  
想定されるイベントがすべて発生するまでシステムを運用します。
- (4) 監視対象の各ノードのコリレーションログファイルを、  
mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）をダウンロードした  
サーバまたはクライアントに格納します。コリレーションログファイルは、  
監視対象ノードの文字コードで出力されています。  
異なる文字コードのコリレーションログファイルは、  
イベント監視定義動作確認コマンドで一度に解析できません。  
このため、コード系毎にフォルダを分けて格納しておくことをおすすめします。  
コリレーションログファイルは以下に格納されています。  
コリレーションログファイルの詳細については、Systemwalker Centric Manager  
リファレンスマニュアルを参照してください。

・ファイル名

Cor\_eventgroup\_ *nn*. log

Cor\_correlation\_ *nn*. log

*nn*は数字です。

・格納場所

Windows	Systemwalker インストールディレクトリ ¥mpwalker¥mpaosfsv¥base¥cor log
Solaris Linux	/var/opt/FJSVfwaos/cor log

- (5) コリレーションログファイルの解析情報ファイルを作成します。  
解析対象のコリレーションログファイルと同じ文字コードで作成します。  
コリレーションログファイルの解析情報ファイルの詳細については、  
本書の 7. コリレーションログファイルの解析情報ファイルを参照してください。
- (6) (5)で作成したコリレーションログファイルの解析情報ファイルを指定して、  
mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）を実行します。  
mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）の詳細については、  
本書の“6. mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）”を  
参照してください。
- (7) (6)の出力結果に出力された内容をもとに、発生したイベントが  
意図した条件に一致しているか確認します。

意図しない条件で一致している場合は、確認対象の運用環境のイベントの各監視定義の定義内容に誤りがないか、イベントが抑止されていないかを確認し、定義/設定を変更します。

・確認/変更対象のイベントの各監視定義/設定

イベント監視の条件定義

イベントコリレーション監視の条件定義

メッセージ変換定義

イベントグループ定義

類似イベント抑止定義

同一イベント抑止の設定 ([通信環境定義詳細]の[動作設定]タブで  
[メッセージ抑止]の設定)

(6)の出力結果の詳細については、本書“6.9 実行結果/出力形式”の  
“(9)解析コマンドでの出力メッセージ”を参照してください。

(8) 発生したすべてのイベントに対して確認および修正が完了した後、  
再度(3)から確認を行います。

## 5.2 運用中にイベントの各監視定義の正当性を確認する

以下の手順の(1)、(2)、(3)は、mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド)を  
ダウンロードしたサーバまたはクライアントで実行します。

(1) 監視対象の各ノードのコリレーションログファイルを、  
mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド)をダウンロードした  
サーバまたはクライアントに格納します。コリレーションログファイルは、  
監視対象ノードの文字コードで出力されています。異なる文字コードの  
コリレーションログファイルは、イベント監視定義動作確認コマンドで  
一度に解析できません。このため、コード系毎にフォルダを分けて  
格納することをおすすめします。

コリレーションログファイルは以下に格納されています。

コリレーションログファイルの詳細については、Systemwalker Centric Manager  
リファレンスマニュアルを参照してください。

・ファイル名

Cor\_eventgroup\_ *nn*. log

Cor\_correlation\_ *nn*. log

*nn*は数字です。

・格納場所

Windows	Systemwalker インストールディレクトリ ¥mpwalker¥mpaosfsv¥base¥cor log
Solaris	/var/opt/FJSVfwaos/cor log
Linux	

(2) コリレーションログファイルの解析情報ファイルを作成します。

コリレーションログファイルの解析情報ファイルは、解析対象の  
コリレーションログファイルと同じ文字コードで作成します。

コリレーションログファイルの解析情報ファイルの詳細については、



本書の“7. コリレーションログファイルの解析情報ファイル”を参照してください。

(3) (2)で作成したコリレーションログファイルの解析情報ファイルを指定して、mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）を実行します。mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）の詳細については、本書の“6. mpaoscrlogalyze（イベント監視定義動作確認コマンド）”を参照してください。

(4) (3)の出力結果に出力された内容をもとに、発生したイベントが意図した条件に一致しているか確認します。意図しない条件で一致している場合は、確認対象の運用環境のイベントの各監視定義の定義内容に誤りがないか、イベントが抑止されていないかを確認し、定義/設定を変更します。

・確認/変更対象のイベントの各監視定義/設定

    イベント監視の条件定義

    イベントコリレーション監視の条件定義

    メッセージ変換定義

    イベントグループ定義

    類似イベント抑止定義

    同一イベント抑止の設定（[通信環境定義詳細]の[動作設定]タブで  
    [メッセージ抑止]の設定）

(3)の出力結果の詳細については、本書“6.9 実行結果/出力形式”の“(9)解析コマンドでの出力メッセージ”を参照してください。

## 6. mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド)

### 6.1 機能説明

本コマンドは、指定した条件でコリレーションログファイルを解析し、結果を表示します。

### 6.2 記述形式

```
mpaoscrlogalyze -f InputFile [-c {SJIS|EUC|UTF-8}]
```

### 6.3 オプション

-f InputFile

解析情報をINIファイル形式で作成し、フルパスまたは相対パス名で指定します。  
INIファイルの形式については、“コリレーションログファイルの解析情報ファイル”を参照してください。

-c {SJIS|EUC|UTF-8}

“コリレーションログファイルの解析情報ファイル”および“コリレーションログファイル”の文字コードを指定します。

コリレーションログファイルの文字コードは、出力された環境のSystemwalker Centric Managerの文字コードと同一です。

省略した場合は、コマンド実行環境のSystemwalker Centric Managerの文字コードが使用されます。

### 6.4 復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

### 6.5 コマンド格納場所

任意のディレクトリ

### 6.6 実行に必要な権限/実行環境

- ・運用管理サーバ/部門管理サーバ/業務サーバでは、Administrator権限 /DmAdmin権限/DmOperation権限/DmReference権限が必要です。
- ・運用管理クライアント/クライアントでは、一般ユーザの権限が必要です。

### 6.7 注意事項

本コマンドを同時に実行しないでください。

コリレーションログファイルのサイズ、数によっては本コマンドの実行に数分かかることがあります。

解析対象のコリレーションログファイルを複数指定している場合、解析対象となるコリレーションログファイルの数を減らして実行することで本コマンドの実行時間が短くなります。

### 6.8 使用例

```
mpaoscrlogalyze -f InputFile.ini
```

6.9 実行結果/出力形式

<p>&lt;検出件数&gt;(1)件のイベントが検索されました。</p> <hr/>	
<p>&lt;イベント項番&gt;(2) コリレーションログファイル: &lt;コリレーションログファイルパス&gt;(3) イベント受信日時: &lt;イベント受信日時&gt;(4) イベント発生日時: &lt;イベント発生日時&gt;(5) ホスト名: &lt;ホスト名&gt;(6) メッセージ: &lt;メッセージ&gt;(7)</p>	] 共通情報
<p>処理&lt;処理項番&gt;(8): &lt;解析コマンドでの出力メッセージ&gt;(9)</p>	] 処理毎情報
<p>処理&lt;処理項番&gt;(8): &lt;解析コマンドでの出力メッセージ&gt;(9) : ~以降、処理数分繰り返し~</p>	] 処理毎情報
<hr/>	
<p>&lt;イベント項番&gt;(2) コリレーションログファイル: &lt;コリレーションログファイルパス&gt;(3) イベント受信日時: &lt;イベント受信日時&gt;(4) イベント発生日時: &lt;イベント発生日時&gt;(5) ホスト名: &lt;ホスト名&gt;(6) メッセージ: &lt;メッセージ&gt;(7)</p>	] 共通情報
<p>処理&lt;処理項番&gt;(8): &lt;解析コマンドでの出力メッセージ&gt;(9)</p>	] 処理毎情報
<p>処理&lt;処理項番&gt;(8): &lt;解析コマンドでの出力メッセージ&gt;(9) : ~以降、処理数分繰り返し~</p>	] 処理毎情報

-----  
(<イベント項番>(2))

～以降、イベント数分繰り返し～

(1) 検出件数

該当したコリレーションログの件数。ただし、同一イベント(注1)のログはまとめて1件とみなします。

(2) イベント項番

イベントの項番。1ずつ増加します。

(3) コリレーションログファイルパス

イベントが記載されたログファイルのフルパス(注2)。

(4) イベント受信日時

イベント受信日時。“YYYY/MM/DD HH:mm:SS.sss”形式(注2)。  
コリレーションログ中の日時で出力されます。ログ中になければ空欄となります。

(5) イベント発生日時

イベント発生日時。“YYYY/MM/DD HH:mm:SS.sss”形式(注2)。  
コリレーションログ中の日時で出力されます。ログ中になければ空欄となります。

(6) ホスト名

ホスト名(注2)。ログ中のものがそのまま表示されます。

(7) メッセージ

メッセージ(注2)。ログ中のものがそのまま表示されます。

(8) 処理項番

処理の項番。イベント内に閉じて、1ずつ増加します。

(9) 解析コマンドでの出力メッセージ

処理名(注3)によって異なります。

出力メッセージの詳細については、本書 付録A. mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド) の出力メッセージを参照してください。

注1)

同一イベントの定義は、以下の通り。

以下のいずれかに該当し、かつ連続してログに記録されている。

- ・ イベントIDが同一である。または、
- ・ “イベント発生日時”、“ホスト名”、“メッセージテキスト” の3つ全てが同一である。

(ただし、各項目が空欄であった場合は、同一とはみなされない)

注2)

処理毎情報が複数ある場合、共通情報には、先頭の処理のログに記載されている情報が付加されます。

注3)

“コリレーションログファイルの解析情報ファイル”の“ACTION”に指定可能な処理名を指します。

#### 6.10 出力例1

2件のイベントが検索されました。

(1)

コリレーションログファイル:

C:\work\mpaoscr\logalyze\Cor\_correlation\_01.log

イベント受信日時:

2015/04/01 13:00:01.321

イベント発生日時:

2015/04/01 13:00:01.000

ホスト名:

hostA

メッセージ:

test message

処理1:

イベントを受信しました。

ラベル名: LABEL1

エラー種別: Information

監視イベント種別: アプリケーション

重要度: 一般

メッセージタイプ: 一般メッセージ

通報番号: 0

監視抑止: OFF

処理2:

イベント監視の条件定義(30行目)に一致しました。

ログ格納: YES

上位送信: YES

監視イベント種別: アプリケーション

重要度: 警告

通報番号: 0

文字色: 標準  
背景色: 標準  
実行方法の指定: 上位優先  
プロシジャ名:  
Systemwalkerコンソールへの表示: 監視イベント一覧に表示

---

(2)

コリレーションログファイル:  
C:\work\mpaoscrlogalyze\Cor\_correlation\_01.log  
イベント受信日時:  
2015/04/01 13:18:01.321  
イベント発生日時:  
2015/04/01 13:18:01.000  
ホスト名:  
hostB  
メッセージ:  
test message2

処理1:  
イベントを受信しました。

ラベル名: LABEL2  
エラー種別: Information  
監視イベント種別: アプリケーション  
重要度: 一般  
メッセージタイプ: 一般メッセージ  
通報番号: 0  
監視抑止: OFF

処理2:  
イベント監視の条件定義 (29行目) に一致しました。

ログ格納: YES  
上位送信: YES  
監視イベント種別: アプリケーション  
重要度: 警告  
通報番号: 0  
文字色: 標準  
背景色: 標準  
実行方法の指定: 上位優先  
プロシジャ名:  
Systemwalkerコンソールへの表示: 監視イベント一覧に表示

## 6.11 出力例 2

```
1件のイベントが検索されました。
-----
(1)
コリレーションログファイル:
C:¥work¥mpaoscrlogalyze¥Cor_correlation_01.log
イベント受信日時:
2015/04/01 13:00:01.321
イベント発生日時:

ホスト名:
hostA
メッセージ:

処理1:
イベント監視の条件定義を読み込みました。
```

## 7. コリレーションログファイルの解析情報ファイル

### 7.1 ファイル名

任意(\*.\*)

### 7.2 使用用途

本ファイルは、mpaoscrlogalyzeコマンドで-f InputFileオプションに指定します。

### 7.3 格納場所

任意のディレクトリ

### 7.4 ファイル形式

```
[SEARCH]
PATH=解析するコリレーションログファイル
MESSAGE=メッセージ
ACTION=処理名
HOST=ホスト名
RECVTIME=YYYY/MM/DD△HH:mm:ss.sss
TIMESTAMP= YYYY/MM/DD△HH:mm:ss.sss
SORT=ソート種別
```

#### [SEARCH]

ファイルの先頭に記載してください。省略できません。

#### PATH

解析するコリレーションログファイルをフルパスで指定します。  
以下のワイルドカードを使用して指定できます。省略した場合は、  
コマンドを実行した環境のコリレーションログファイルを対象とします。

ワイルドカード	意味
*	空文字列を含む任意の文字列と一致します。
?	任意の一文字と一致します。
[]	かぎ括弧内のいずれかの文字と一致します。 -でつながれた文字は範囲を表します。 かぎ括弧の中の最初の文字が^である時には含まれない文字と一致します。 ^の代わりに!も同じ意味で使用できます。
{}	カンマで区切られた文字列の組合せに展開します。 例えば、file{a,b,c} は、filea、fileb、filec のいずれかであることを表します。 入れ子にすることもできます。 例えば、{file1,file2{a,b}} は、file1、file2a、file2b のいずれかであることを表します。

**注意**

ワイルドカードの文字を一般の文字として使用する場合は、  
“¥” を直前に指定してください。

**MESSAGE**

解析するメッセージを指定します。以下の正規表現を使用して指定できます。  
メッセージに改行がある場合は、改行部分に半角スペースを指定してください。  
省略した場合、メッセージで絞込みを行いません。

正規表現	意味
文字	文字を含む文字列を表します。
.	任意の1文字を表します。
*	直前の1文字（正規表現を含む）の0回以上の繰り返しを表します。
^	先頭であることを表します。
\$	末尾であることを表します。
[文字列]	文字列の中の任意の1文字を表します。
[^文字列]	文字列に使われている文字以外の任意の1文字を表します。
[文字a-文字b]	文字aから文字bまでの任意の1文字を表します。

**注意**

- ・ 正規表現の文字を一般の文字として使用する場合は、  
“¥” を直前に指定してください。
- ・ “^” および “\$” を指定しない場合は、部分一致の条件とみなします。
- ・ 正規表現における1文字は、シングルバイト文字/マルチバイト文字共に1文字とみなします。



## ACTION

解析する処理名を指定します。複数指定する場合は“,”で区切って指定します。省略した場合、処理名で絞り込みを行いません。

処理名	説明
common	Systemwalker Centric Managerが、自システムで発生したイベントを検出した。または、被監視システムで発生したイベントを受け付けたことを意味する処理名です。これを指定することで、Systemwalker Centric Managerのイベント監視の条件定義でフィルタされる前のイベントの情報を知ることができます。コリレーションログでは、ACTIONがcommonになっている情報の後に、convertmsg、correlation、eventgroup、eventcheck、samemsg、amountmsg、あるいは、eventgroupdetermentの情報が続けて出力されます
convertmsg	イベントを集約して監視するためにメッセージ変換定義を利用し、メッセージ変換を行っているイベントを抽出する場合に指定します。イベント変換の詳細については下記マニュアルを参照してください。 Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
correlation	イベントを集約して監視するために、複数のイベントをまとめて監視するイベントコリレーション機能を利用してイベントを抽出する場合に指定します。イベントコリレーションの詳細については下記マニュアルを参照してください。 Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
eventgroup	イベントを集約して監視するためにイベントグループ定義を利用している環境に利用します。この環境において、イベントグループ定義に一致したイベントを抽出する場合に指定します。イベントグループ定義の詳細については下記マニュアルを参照してください。 Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
eventcheck	イベントがイベント監視の条件定義のどの行に一致したのかを確認する場合に指定します。イベント監視の条件定義の詳細については下記マニュアルを参照してください。 Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編 Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編 Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編 (互換用)
samemsg	Systemwalker Centric Managerは、一定時間内に同一のイベントが複数発生した場合に、二つ目以降のイベントを破棄する設定ができます(初期値では、破棄されません)。この機構により破棄されたイベントを確認する場合に指定します。同一イベント抑止機能の詳細については下記マニュアルを参照してください。 Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
amountmsg	Systemwalker Centric Managerでは、一定時間内にイベン

	<p>トが多発した場合、一定数発生した後にそれ以降のイベントを抑止し、破棄する設定ができます（初期値では、破棄されません）。</p> <p>この機構により破棄されたイベントを確認する場合に指定します。類似イベント抑止機能の詳細については下記マニュアルを参照してください。</p> <p>Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編</p>
eventgroupdeterment	<p>Systemwalker Centric Managerでは、新しく発生したイベントと同じイベントが以前に発生しており、かつ、[未対処]の状態である場合にイベントを抑止することができます。この未対処イベント抑止機能により抑止されたイベントを確認する場合に指定します。未対処イベント抑止機能の詳細については下記マニュアルを参照してください。</p> <p>Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編</p>
readdefinition	<p>ポリシー定義、ローカル設定、[イベント監視の条件定義]のCSV反映コマンドによって、イベント監視の条件定義が更新された日時を確認する場合に指定します。イベント監視の条件定義の詳細については下記マニュアルを参照してください。</p> <p>Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編 Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編 (互換用) Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル</p>

#### HOST

解析するホスト名を指定します。MESSAGEで使用可能な正規表現を使用して指定できます。省略した場合、ホスト名で絞り込みを行いません。

#### RECETIME

解析するイベント受信日時を指定します。

Systemwalker Centric Managerが、自システムで発生したイベントを検出した、または、被監視システムで発生したイベントを受け付けた時間が検索対象になります。特定の時間に、Systemwalker Centric Managerが処理しているイベントを確認する場合に指定します。

MESSAGEで使用可能な正規表現を使用して指定できます。

省略した場合、イベント受信日時で絞り込みを行いません。

値は、YYYY/MM/DD△HH:mm:ss.sssの形式で指定します。

“△”は半角スペース、それ以外は以下を指定してください。

YYYY: 西暦4桁

MM: 2桁の月(01~12)

DD: 2桁の日(01~31)

HH: 2桁の時刻(00~23)

SS: 2桁の秒(00~59)

sss: 3桁のミリ秒(000~999)

#### TIMESTAMP

解析するイベント発生日時を指定します。

Systemwalkerコンソールに表示されているイベントの日時  
(syslog、イベントログ等)に出力されている日時)が検索対象になります。  
MESSAGEで使用可能な正規表現を使用して指定できます。  
省略した場合、イベント発生日時で絞り込みを行いません。  
値は、YYYY/MM/DD△HH:mm:SS.sssの形式で指定します。  
“△”は半角スペース、それ以外は以下を指定してください。

YYYY: 西暦4桁  
MM: 2桁の月(01~12)  
DD: 2桁の日(01~31)  
HH: 2桁の時刻(00~23)  
SS: 2桁の秒(00~59)  
sss: 3桁のミリ秒(000~999)

#### SORT

解析結果を表示する際のソート順を指定します。以下のいずれかの値を  
指定します。省略した場合、ソートは行われません。

RECETIME\_ASC: イベント受信日時をキーに昇順ソートします。  
TIMESTAMP\_ASC: イベント発生日時をキーに昇順ソートします。

#### 7.5 注意事項

PATHはコリレーションログファイルの格納場所から別のディレクトリに  
コピーした先を指定してください。コリレーションログファイルの  
格納場所を直接指定し、Systemwalker Centric Managerを起動中に  
本コマンドを実行すると、ログ出力が競合した場合、本コマンドと  
Systemwalker Centric Managerのいずれかでアクセス違反が発生することが  
あります。

#### 7.6 使用例1

Systemwalker Centric Managerで監視するはずのイベントが監視されない場合の  
確認例を示します。

##### 【確認対象】

- ・監視予定のイベントのメッセージ  
appA: [ID 1000] Want to be monitored message

##### 【本コマンドの実行環境】

- ・インストール種別  
運用管理サーバ
- ・イベント監視定義動作確認コマンドの格納先  
C:¥work¥mpaoscrlogalyze
- ・コリレーションログファイルの解析情報ファイルの名前と格納先  
名前: appA1000.ini  
格納先: C:¥work¥mpaoscrlogalyze¥def

##### 【確認手順】

- (1) 運用管理サーバで、コリレーションログファイルの解析情報ファイルを  
作成します。

C:¥work¥mpaoscrlogalyze¥def¥appA1000.ini

[SEARCH]

MESSAGE=appA: ¥[ID 1000¥] Want to be monitored message

- (2) 運用管理サーバで、イベント監視定義動作確認コマンドを実行し、  
コリレーションログファイルの解析を行います。

コマンドの実行/出力結果例

```
C:¥work¥mpaoscrlogalyze>mpaoscrlogalyze -f def¥appA1000.ini  
1件のイベントが検索されました。
```

(1)

コリレーションログファイル:

```
C:¥Systemwalker¥MPWALKER¥mpaosfsv¥base¥corlog¥Cor_correlation_01.log
```

イベント受信日時:

2015/04/01 13:00:01.321

イベント発生日時:

2015/04/01 13:00:01.000

ホスト名:

serverA

メッセージ:

appA: [ID 1000] Want to be monitored message

処理1:

メッセージを受信しました。

ラベル名:

エラー種別: Error

監視イベント種別: アプリケーション

重要度: 重要

メッセージタイプ: 一般メッセージ

通報番号: 0

監視抑止: OFF

処理2:

イベント監視の条件定義(33行目)に一致しました。

ログ格納: NO

上位送信: YES

監視イベント種別: その他

重要度: 重要

通報番号: 0

文字色: 標準

背景色: 標準

実行方法の指定: 上位優先

プロシジャ名:

Systemwalker コンソールへの表示: 表示されない

- (3) (2)の結果を確認し、対処を行います。  
上記の出力例では、[イベント監視の条件定義]の33行目を確認します。  
[メッセージ監視アクション]で[ログ格納]が“しない”に設定されていますので、[ログ格納]を“する”に変更します。

## 7.7 使用例2

Systemwalker Centric Managerで監視しないはずのイベントが監視される場合の確認例を示します。

### 【確認対象】

- ・ 監視予定ではないイベントのメッセージ  
sysA: Not want to be monitored message
- ・ 監視予定ではないイベントが発生したノード  
OS: Linux  
文字コード: UTF-8  
ホスト名: serverB  
インストール種別: 運用管理サーバ
- ・ 監視予定ではないイベントが発生した日時  
2015年4月1日 14時過ぎ

### 【本コマンドの実行環境】

- ・ インストール種別  
運用管理クライアント
- ・ イベント監視定義動作確認コマンドの格納先  
C:¥work¥mpaoscr logalyze
- ・ コリレーションログファイルの格納先  
C:¥work¥mpaoscr logalyze¥logs¥utf8
- ・ コリレーションログファイルの解析情報ファイルの名前と格納先  
名前: sysA. ini  
格納先: C:¥work¥mpaoscr logalyze¥def

### 【確認手順】

- (1) 確認対象のノードserverBの/var/opt/FJSVfwaos/corlogから  
コリレーションログファイルを取得し、運用管理クライアントの  
C:¥work¥mpaoscr logalyze¥logs¥uft8に格納します。

- (2) コリレーションログファイルの解析情報ファイルを作成し、  
UTF-8で保存します。

C:¥work¥mpaoscr logalyze¥def¥sysA. ini

```
[SEARCH]
PATH=C:¥work¥mpaoscr logalyze¥logs¥utf8¥Cor_correlation_*.log
MESSAGE=sysA: Not want to be monitored message
HOST=serverB
RECVMIME=2015/04/01 14
```

- (3) イベント監視定義動作確認コマンドを実行し、コリレーションログファイルの解析を行います。

コマンドの実行/出力結果例

```
C:\work\mpaoscrlogalyze>mpaoscrlogalyze -f def\sysA.ini -c UTF-8
1件のイベントが検索されました。
-----
(1)
コリレーションログファイル:
C:\work\mpaoscrlogalyze\logs\utf8\Cor_correlation_01.log
イベント受信日時:
2015/04/01 14:00:01.123
イベント発生日時:
2015/04/01 14:00:01.000
ホスト名:
serverB
メッセージ:
sysA: Not want to be monitored message

処理1:
メッセージを受信しました。

ラベル名:
エラー種別: Warning
監視イベント種別: システム
重要度: 重要
メッセージタイプ: 一般メッセージ
通報番号: 0
監視抑止: OFF

処理2:
イベント監視の条件定義(34行目)に一致しました。

ログ格納: YES
上位送信: YES
監視イベント種別: その他
重要度: 重要
通報番号: 0
文字色: 標準
背景色: 標準
実行方法の指定: 上位優先
プロシジャ名:
Systemwalker コンソールへの表示: 監視イベント一覧に表示
```

(4) (3)の結果を確認し、対処を行います。

上記の出力例では、serverBの[イベント監視の条件定義]の34行目を確認します。以下が設定されています。

- ・ イベントの特定
  - ホスト名の特定: 特定しない
  - メッセージテキストの特定: 特定しない
- ・ メッセージ監視アクション
  - ログ格納: する
  - 上位システムに送信: する

serverBの[イベント監視の条件定義]の1行目に、以下の定義を追加します。

- ・ イベントの特定
  - ホスト名の特定: 特定しない
  - メッセージテキストの特定: sysA: Not want to be monitored message
- ・ メッセージ監視アクション
  - ログ格納: しない
  - 上位システムに送信: しない

## 8. メッセージ

mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド) により出力されるメッセージを以下に示します。

```
mpaoscrlogalyze: ERROR: 00001: コマンドパラメタ指定が不正です。  
Usage: mpaoscrlogalyze -f InputFile [-c {SJIS|EUC|UTF-8}]
```

### 【メッセージの意味】

コマンドパラメタ指定が不正です。

### 【対処方法】

使用方法を確認し、再度コマンドを実行してください。

```
mpaoscrlogalyze: ERROR: 00002: 指定されたファイルの読み込みに失敗しました。  
ファイル名: %1
```

### 【メッセージの意味】

- ・ コマンドパラメタまたはコリレーションログファイルの解析情報ファイルで指定したファイルが存在しない、またはアクセスできません。
- ・ 実行した環境のコリレーションログファイルを指定した場合、コマンド実行中に、コリレーションログファイルに対する書き込みが実施されている可能性があります。

### 【パラメタの意味】

%1: ファイル名

### 【対処方法】

- ・ ファイルの存在またはアクセス権、文字コード、改行コードを確認し、再度コマンドを実行してください。
- ・ しばらく間隔をおいてから再度コマンドを実行するか、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止した上でコマンドを実行してください。

mpaoscrlogalyze: ERROR: 00003: 指定したファイル内容に誤りがあります。  
ファイル名(行番号): 場所  
%1(%2): %3

**【メッセージの意味】**

コリレーションログファイルの解析情報ファイルの内容に誤りがあります。

**【パラメタの意味】**

%1: コリレーションログファイルの解析情報ファイル名

%2: 行番号

%3: 誤りのあるセクションまたは[セクション]値

**【対処方法】**

指定された値の形式に誤りがあります。指定した文字列がない、  
値の形式が異なっている、または形式外の値が記載されているため、  
コリレーションログの解析情報ファイルを確認し、  
正しい形式で指定してください。

mpaoscrlogalyze: ERROR: 00004: コマンドは既に行われて実行されています。

**【メッセージの意味】**

イベント監視定義動作確認コマンドが二重実行されています。

**【対処方法】**

既に行っているイベント監視定義動作確認コマンドが終了するまで待つ、  
もしくは強制停止してから再度実行してください。

mpaoscrlogalyze: ERROR: 00005: Systemwalker Centric Managerの検出に失敗しました。

**【メッセージの意味】**

実行中のマシン上でSystemwalker Centric Managerを検出できず、  
ツールの実行に失敗しました。

**【対処方法】**

実行しているマシン上にSystemwalker Centric Managerがインストールされて  
いない場合は、インストールされているマシン上で再度実行してください。  
Systemwalker Centric Managerがインストールされている場合、  
実行に必要な権限を持つユーザで実行しているか確認してください。

mpaoscrlogalyze: ERROR: 00099: 解析中にエラーが発生しました。(%)

**【メッセージの意味】**

解析中にエラーが発生しました。

**【パラメタの意味】**

%1: 詳細

**【対処方法】**

ディスク容量、メモリ、指定したコリレーションログファイルの  
アクセス情報を確認して、再度コマンドを実行してください。  
上記対処で現象が回避されない場合、Systemwalker Centric Managerの  
保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、



技術員に連絡してください。

保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager  
メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を  
参照してください。

付録A. mpaoscrlogalyze (イベント監視定義動作確認コマンド) の出力メッセージ

付録A.1 処理名 common に関する出力メッセージ

メッセージを受信しました。

ラベル名: <ラベル名>

エラー種別: <エラー種別>

監視イベント種別: <監視イベント種別>

重要度: <重要度>

メッセージタイプ: <メッセージタイプ>

通報番号: <通報番号>

監視抑止: <監視抑止>

<ラベル名>

コリレーションログに出力されているラベル名

<エラー種別>

コリレーションログに出力されているエラー種別

<監視イベント種別>

コリレーションログに出力されている監視イベント種別

<重要度>

以下のいずれか

- ・最重要
- ・重要
- ・警告
- ・通知
- ・一般

<メッセージタイプ>

以下のいずれか

- ・なし
- ・返答要求メッセージ
- ・高輝度メッセージ
- ・一般メッセージ
- ・しきい値戻りデータ

<通報番号>

コリレーションログに出力されている通報番号

<監視抑止>

以下のいずれか

- ・ON
- ・OFF

付録A.2 処理名 convertmsg に関する出力メッセージ

メッセージ変換定義 (<定義一致番号>行目) に一致しました。

以下のメッセージに変換されました。

〈変換後のメッセージ〉

〈定義一致番号〉

コリレーションログに出力されているメッセージ変換定義の定義一致番号

〈変換後のメッセージ〉

コリレーションログに出力されている変換後のメッセージ

#### 付録A.3 処理名 correlation に関する出力メッセージ

コリレーション監視の条件定義(〈定義一致番号〉行目)に一致しました。

以下のパターン名に一致しました。

〈一致したパターン名〉

一致した条件: 〈一致した条件〉

パターンの成立: 〈パターンの成立〉

監視条件の成立: 〈監視条件の成立〉

〈定義一致番号〉

コリレーションログに出力されているコリレーション監視の条件定義の  
定義一致番号

〈一致したパターン名〉

- ・一致したパターン名がある場合  
コリレーションログに出力されているパターン名
- ・一致したパターン名が空の場合  
“コリレーション監視条件のリセットイベント”

〈一致した条件〉

以下のいずれか

- ・基準イベント
- ・関連イベントの定義(番号)行目
- ・リセットイベント

〈パターンの成立〉

以下のいずれか

- ・条件成立
- ・条件不成立
- ・監視中

〈監視条件の成立〉

以下のいずれか

- ・条件成立
- ・条件不成立
- ・監視中

コリレーション監視の条件定義(〈定義一致番号〉行目)の監視が終了しました。

監視条件の成立: 〈監視条件の成立〉

〈定義一致番号〉

コリレーションログに出力されているコリレーション監視の条件定義の

- 定義一致番号  
〈監視条件の成立〉  
以下のいずれか
- ・ 条件成立
  - ・ 条件不成立
  - ・ 監視中

コリレーション監視の条件定義(〈定義一致番号〉行目)の監視間隔が経過しました。

一致したパターン名: 〈一致したパターン名〉  
パターンの成立: 〈パターンの成立〉  
監視条件の成立: 〈監視条件の成立〉

〈定義一致番号〉

コリレーションログに出力されているコリレーション監視の条件定義の  
定義一致番号

〈一致したパターン名〉

- ・ 一致したパターン名がある場合  
コリレーションログに出力されているパターン名
- ・ 一致したパターン名が空の場合  
“コリレーションの監視条件”

〈パターンの成立〉

- 以下のいずれか
- ・ 条件成立
  - ・ 条件不成立
  - ・ 監視中

〈監視条件の成立〉

- 以下のいずれか
- ・ 条件成立
  - ・ 条件不成立
  - ・ 監視中

コリレーション監視の条件定義(〈定義一致番号〉行目)により、このイベントへの対処を行いました。

処理結果: 〈処理結果〉

〈定義一致番号〉

コリレーションログに出力されているコリレーション監視の条件定義の  
定義一致番号

〈処理結果〉

- 以下のいずれか
- ・ 成功
  - ・ 失敗

コリレーション監視の条件定義(〈定義一致番号〉行目)により、メッセージ発生を行いました。

メッセージ: <メッセージ>

処理結果: <処理結果>

<定義一致番号>

コリレーションログに出力されているコリレーション監視の条件定義の  
定義一致番号

<メッセージ>

コリレーションログに出力されているメッセージ

<処理結果>

以下のいずれか

- ・ 成功
- ・ 失敗

コリレーションによりこのイベントを監視しました。

コリレーションによりこのイベントを監視しませんでした。

#### 付録A.4 処理名 eventgroup に関する出力メッセージ

イベントグループ定義(<定義一致番号>行目)に一致しました。

付加したグループ名: <付加したグループ名>

<定義一致番号>

コリレーションログに出力されているイベントグループ定義の定義一致番号

<付加したグループ名>

コリレーションログに出力されているイベントグループ名

#### 付録A.5 処理名 eventcheck に関する出力メッセージ

イベント監視の条件定義(<定義一致番号>行目)に一致しました。

ログ格納: <ログ格納>

上位送信: <上位送信>

監視イベント種別: <監視イベント種別>

重要度: <重要度>

通報番号: <通報番号>

文字色: <文字色>

背景色: <背景色>

実行方法の指定: <実行方法の指定>

プロシジャ名: <プロシジャ名>

Systemwalkerコンソールへの表示: <Systemwalkerコンソールへの表示>

<定義一致番号>

コリレーションログに出力されているイベント監視の条件定義の定義一致番号

<ログ格納>

以下のいずれか

- ・ YES

- ・ NO

<上位送信>

以下のいずれか

- ・ YES
- ・ NO

<監視イベント種別>

コリレーションログに出力されている監視イベント種別

<重要度>

以下のいずれか

- ・ 最重要
- ・ 重要
- ・ 警告
- ・ 通知
- ・ 一般

<通報番号>

コリレーションログに出力されている通報番号

<文字色>

以下のいずれか

- ・ 標準
- ・ 黒
- ・ 深緑
- ・ 濃灰色
- ・ 青緑
- ・ 白
- ・ 黄
- ・ 黄緑
- ・ 茶
- ・ 赤
- ・ 青
- ・ 水色
- ・ 淡灰色
- ・ 緑
- ・ 紫
- ・ ピンク
- ・ 黄土色

<背景色>

以下のいずれか

- ・ 標準
- ・ 黒
- ・ 深緑
- ・ 濃灰色
- ・ 青緑
- ・ 白
- ・ 黄
- ・ 黄緑

- ・ 茶
- ・ 赤
- ・ 青
- ・ 水色
- ・ 淡灰色
- ・ 緑
- ・ 紫
- ・ ピンク
- ・ 黄土色

〈実行方法の指定〉

以下のいずれか

- ・ 上位優先
- ・ 常時実行

〈プロシジャ名〉

コリレーションログに出力されているプロシジャ名（メッセージ監視アクションでメッセージの編集が指定されている場合に出力されます）

〈Systemwalkerコンソールへの表示〉

以下のいずれか

- ・ 監視イベント一覧に表示
- ・ メッセージ一覧に表示
- ・ 表示されない

イベント監視の条件定義に一致ませんでした。

付録A.6 処理名 samemsg に関する出力メッセージ

同一イベントとして抑止されました。

付録A.7 処理名 amountmsg に関する出力メッセージ

類似イベントとして抑止されました。

一致した文字列: 〈一致した文字列〉

〈一致した文字列〉

メッセージの先頭から“一致定義”（類似イベント抑止定義コマンドの-nオプションの値）の文字数分の文字列

付録A.8 処理名 eventgroupdeterment に関する出力メッセージ

監視イベント一覧上の未対処イベントとして抑止されました。

付加されたイベントグループ名: 〈イベントグループ名〉

〈イベントグループ名〉

コリレーションログに出力されているイベントグループ名

監視イベント一覧上の未対処イベントの抑止を開始しました。

付加されたイベントグループ名: 〈イベントグループ名〉

〈イベントグループ名〉

コリレーションログに出力されているイベントグループ名

対処により、監視イベント一覧上の未対処イベントの抑止を解除しました。

付加されたイベントグループ名: <イベントグループ名>

<イベントグループ名>

コリレーションログに出力されているイベントグループ名

データベースのサイクリックにより、監視イベント一覧上の未対処イベントの抑止を解除しました。

付加されたイベントグループ名: <イベントグループ名>

<イベントグループ名>

コリレーションログに出力されているイベントグループ名

監視イベント一覧上の未対処イベントの抑止処理に致命的なエラーが発生しました。

#### 付録A.9 処理名 readdefinition に関する出力メッセージ

<定義種別>を読み込みました。

<定義種別>

以下のいずれか

- ・メッセージ変換定義
- ・コリレーション監視の条件定義
- ・イベント監視の条件定義
- ・イベントグループ定義